

ZENBUTSU



全仏

No.
547

仏暦2552年 3月
[2009年]



天童寺の仏殿で朝の勤行をする僧侶たち (中国) 撮影 田村 仁氏

目次

論点・視点 ⑳ 「カラスの『カ〜』で悟るということ」 玄侑宗久
加盟団体をゆく 第23回 東京ブディストクラブ
理事会・評議員会・参与会開催
宗教教育推進委員会開催
加盟団体顧問弁護士連絡会開催
国際交流審議会開催
東京都仏教連合会成道会開催
新花まつりポスター頒布のお知らせ

論点・視点

②0

カラスの「カ」で悟るといふこと

作家・福聚寺住職 玄侑 宗久

臨済宗の一休宗純禅師（一三九四～一四八二）は、カラスが「カ」と鳴くのを聞いてお悟りを開いたと云われる。これはいつたいどういうことなのだろう。

頓知で有名な一休さんではあるが、これは一応真面目な話なので、ちよつと真面目に考えてみたい。禅の最大テーマは「己事究明」と云われる。つまり、自己とは何か、ということである。

むろんここで云う自己とは、誰の息子だとか、何の職業かとか、年齢や体重を訊いているわけでもないし、趣味や特技が知りたいわけでもない。難しく云えば、自己の自己性とでもいふのだろうか。少しくだくと、自分が自分であるというのとはどういふことか、である。

「心」だが、心は六道を輪廻し、意馬心猿と云われるほどに厄介でつかみにくいと云われる。しかも心は、刹那（七十五分の一秒）で変わるといふのだから、これはもう、統一的に把握することなど不可能ではないか。「心不可得」と云われる所以である。

しかしそんなことで諦めては修行にならない。じつと何時間も坐禅して、いつたい修行者たちは何をしているのか。じつはああして長時間坐っていること、時間の感覚がおかしくなっていくことがある。一つの決まった単位時間が、あつという間に過ぎることもあれば、じつに長く感じたのに、五分も経っていないという経験もある。あれ？ 時間って、いつたいどうなっているのだろうか、という疑問が起るのである。

ハイデッガーには『存在と時間』という大著があるけれど、じつは道元禅師も『正法眼蔵』のなかに「有時」という一項を立て、自己存在（有）と時間について論じている。こうした大著を煎じ詰めては申し訳ないが、要するに彼らは二人とも、自己の発生と時間の発生は厳密に同時だといふのである。

たとえばある刹那、なにか「カ」という鳴き声を聞いたとする。次の刹那には「あ、カラスかな」と知覚する。じつはこの刹那、つまり「あ、カラスかな」と思った刹那、「カ」という刹那は過去の無数の刹那の流れに繋がることになる。そのことを道元禅師は「排列」とか「経歴」と呼んでいる。繋がった先には初めてカラスを知った時やら、カラスの子供を拾った体験など、無数の時間の配列図がある。「カ」の刹那が、そのどこかに場所を占めるのである。

そうして「あ、カラスかな」「あ、カラスだな」と認識したとき、ほぼ同時に、たとえば「カラスが鳴くから帰ろかな」という一歩後の刹那が繋がる。この一歩前と一歩後の刹那の繋がりが、時間の流れを生み出すのである。

自己というのは、そのように時間が流れるある種の広がりの上に初めて成立すると云えるだろう。つまりカラスについて、自己以外ではありえない配置図と未来への認識をもつ存在として、初めて自己が生まれるということだ。

ハイデッガーは一歩先の刹那との繋がりを重視し、ジャック・デリダはむしろ「今」と「過ぎ去ったばかりの今」の繋がりのほうを重視した。いや、「今」とはじつは「つい今しがたの痕跡」だといふのである。いずれにしても、「カ」という刹那だけでは、時間も自己もまだ発生していない。

逆に云えば、通常感覚のなかでは、カラスかどうかわからない「カ」など、聞くことはできない。禅が「前後際断」せよ、と云うのは、この前にも後ろにも繋がっていない「刹那」としての今を、体験してほしいからである。坐禅を続けて

いると、前後の際で断とうなどと思
うこともなく、いつのまにか刹那ど
うしが非連続になり、自然に際断さ
れてくるから不思議である。むしろ
そのままでは日常生活など送れるは
ずもないから、ほどなく「カラスの
カ」だから、帰ろかな」となるので
ある。

その推移を体験することは、時間
と自己の発生に立ち会う体験であ
る。

一休さんが「カ」で悟ったとい
うのは、じつは自己の発生、それを
支える時間の発生に立ち会ったとい
うことだ。

自己が生まれる前に聞こえる「カ
」は、大抵聞いたこともないよう
な大きな声に聞こえることが多い。
なぜかといえば、自己はカラスの何
たるかを知っているから、無意識の
うちにカラスの声にしてしまう。そ
の作用が働くまえに聞こえる声は、
まったく別物なのである。

このように、刹那刹那ごと死
んでいきながらしかし何らかのもの
が伝わっていく。これは心にも時間
にも、あるいは命そのものにも共通

する原理である。西田幾多郎はその
ことを「非連続の連続」と呼び、イ
ンドの世親(ヴァスバンドウ)は「刹
那滅」、「心相續」と呼んだ。刹那滅
とはドミノが倒れた状態、心相續と
は次のドミノに移ったエネルギーと
考えていいだろう。禅が悟りの世界
を「無生死」と呼び、通常の分別世
界を「生死」の世界というのは、こ
の刹那の繋がりや仕組みを思えば納
得できるだろう。

しかしこれまでの文章でお判りの
ように、この「カ」という単独の
刹那が前後に繋がらなかったら、
我々には自己がないのだから怖ろし
いことだと察しもつくだらう。臨濟
禅師はこの「カ」だけの状況を「奪
人奪境」と呼んだが、これは主観
が溶暗し、対象だけが存在する状況
と云えるだろう。そんな状態では社
会人などできはしない。

精神科の臨床医でもあった木村敏
氏は、『時間と自己』(中公新書)と
いう本において、「禅の考え方はず
いぶん癡癡的だ」と書いている。テ
ンカンというのは、原因は不明だ
が、刹那が前後に繋がらない時間体

験らしい。そこでは一瞬が永遠に感
じられ、木村氏によればそれは「日
常性を保証する理性的認識の座とし
ての『意識の解体』だ」という。テ
ンカンに限らず、こうした体験は、ど
んな健康人にもときどき訪れる非理
性の瞬間で、たとえば愛の恍惚、死
との直面、自然との一体感、あるい
は宗教や芸術の世界における超越性
の体験にも共通すると、木村先生は
おっしゃる。

なにも私は、禅の「悟り」を卑下
しているわけでもないし、侮蔑して
いるわけでもない。ただ「カ」で
悟ったという場合の「悟り」とはそ
のようなものだし、もしも違う「悟
り」があるというなら、それは別な
文脈で別な意味を込めて使われてい
るだけだ。

通常このような純粹と云うべき体
験は、そこから戻ってくることにこ
そ意味がある。おそらく煮物が沸騰
して冷めるときに味が沁み込むよう
に、戻ってきた日常が次第に不純な
がら味わいを増していくのだろう。
いや、美味しいとは不純な味のこと
だ。

自己についてもその成立や発生を
知ればこそ、因習や伝統と創造性と
のバランスがとれるのではないだろ
うか。

一休さんの場合は宗純という名の
如く、因習や伝統を破壊するほど純
粋な創造性を示したが、きつとずい
ぶん頻繁に「カ」を聞いていたの
だろう。

玄侑宗久(げんゆう・そうきゅう)師
一九五六年福島県三春町生まれ。
慶應義塾大学中国文学科を卒業。
さまざまな職業を経験したのち、
天龍寺専門道場入門。僧職の傍
ら小説を書き、「中陰の花」で第
一二五回芥川賞を受賞。『アミタ
ーバ 無量光明』御開帳綺譚』祝
福』などの小説のほか、仏教や禅
にまつわるエッセイ、対談なども
多い。
現在は三春町の福聚寺第三十五世
住職。
妙心寺派現代宗学委員、福島県立
病院経営審議委員など。

加盟団体をゆく

《第二十三回》東京ブディストクラブ

今回は、東京ブディストクラブ西村輝成会長（本会副会長 信松院東堂）にお話を伺いました。信松院は武田信玄の娘である松姫尼公が一五九〇年に八王子御所水の地に草庵を結んだのが創建とされる歴史ある寺院であり、多くの参拝者が訪れます。



西村輝成東京ブディストクラブ会長

―貴団体の活動で、継続的に、また特に力を入れていらっしゃる点についてお聞かせ下さい。

東京ブディストクラブ設立の大

きなきっかけとなったのは、私を含めた当初のメンバーが、全日本仏教青年会代表として世界仏教徒大会に参加した際に、「WFBY（世界仏教青年連盟）を設立しよう」という発案を行い、それが世界各国の代表から大変歓迎されたため、設立に向けての活動を行う必要が出てきた事からです。

WFBY（世界仏教徒連盟）は、一九五〇年に設立されましたが、青年連盟は設立されておられませんでした。

ベトナムの青年会が設立委員会を立ち上げ、招聘を受け会議に参加した後、インド・タイ・韓国・マレーシア等々のWFBY加盟諸国のメンバーを日本に招聘して日本の会議を行う等、設立への具体的活動を全日本仏教青年会が行いました。

その際、各国代表の旅費・滞在費等の負担を日本側で行う事にな

り、それらの経費は全日本仏教青年会でも負担しきれるものではありませんでした。

従って、全日本仏教に全面協力を頂き、事務局より全日本仏教会各加盟団体にWFBY設立に関する協力要請の趣意書を送って頂き、その上で、当時のメンバーが各本山に資金協力をお願いして回り、WFBY設立の為に必要な資金を集める活動を行いました。

その後、青年会活動を一層拡大する上で、全日本仏教青年会を支援する為の支援団体が必要となり、全日本仏教青年会経験者を中心として東京ブディストクラブが設立された次第です。

WFBYが設立された後は、WFBYとの直接のやりとりは全日本仏教青年会が行うようになり、東京ブディストクラブの直接の事業目的からは外れ今日に及んでおります。

現在では、国際仏教興隆協会、全日本仏教婦人連盟、日韓仏教交流協会、日華仏教交流協会といった団体と協力・連携を行い社会活動及び国際協力を行っております。

す。また、主にBNN（仏教NGO ネットワーク）に資金援助を通じて協力を行い、災害救援活動等に役立てて頂いております。今後も継続して支援をしていきます。

また、私どもが力を入れている活動としては、年一回チャリティ成道会を行っております。チャリティイベントとしてのみならず、交流・懇親の場としても活用して頂いております。（関連記事 九頁）

現在、東京ブディストクラブのメンバーは各宗派や仏教界を代表する方々、指導者としての立場の方々に多く参加頂いております。例会や食事会を通じてメンバー同士が情報交換を行う事で、仏教界全体の情報交換もよりスムーズになる効果が期待できるのではないのでしょうか。

―今後の仏教界の在り方について、指針をお聞かせ下さい。

現代的な問題に関して議論し、YES・NOをはっきり意見発表していくことが、今後ますます重要になってくると思われれます。

葬儀や僧侶のあり方を例に挙げると、

——通信教育等で「明日から僧侶になれて、戒名もつける事ができます」という講座等もあります。

「(改宗をして頂く訳ではなく)全部の宗派の葬儀を、各宗派の教えに合わせて執り行います」という僧侶や寺院もあります。——

そうした事例に対して、各宗派や各団体が、認めるにしろ認めないにしろ、議論を深めた上で明確な姿勢を示す事が大切なのではないのでしょうか。

葬儀や戒名の授与等をきっかけとして、釈尊より脈々と続いている各宗派の教えを伝えるという本来の意義をより明確に示していかなければ、葬儀そのものが軽視されたり消滅していくのは当然の流れと言えます。

そうした説明を一般メディアを通じて広報していくことが重要ではないのでしょうか。

——昨今の様々な社会問題について、感じていらっしやる思いをお

聞かせ下さい。

失業者等の報道が連日なされておりますが、一部極端な部分にスポットを当てすぎている感もあります。世界的な不況の中、誰もが苦勞しているのが現状です。

大変歴史があり、参拝客も多数来るような神社仏閣も、維持・管理の予算の捻出に大変苦勞している場合もございます。

そうした中、極端に政治不安や社会不安を増大される報道を繰り返す事は人々の不安を必要以上に増幅させ、不安を増やす事に繋がってしまいうように思います。

仏教界としては、自分の命を含めて命の大切さを、このような社会情勢だからこそより一層訴えていかななくてはなりません。その為には心の支援が大変重要な課題であります。

国家の機関への意見伝達はもちろんのこと、仏教界一丸となつて行動を進めていくべきだと考えます。

——(財)全日本仏教会へのご要望やご意見がありましたらお聞かせ下

さい。

全日本仏教徒会議や世界仏教徒会議を日本で行う場合に、人的な応援は都道府県仏教会に依存しているのが現状です。かつてルンビニー園復興事業等の際には積極的な経済支援を都道府県仏教会が行いました。全一仏教運動は都道府県仏教会との連携強化をより進める事が重要と思います。

全日本仏教会で「都道府県仏教会代表者会議」が継続して開催しておりますが、なかなか全ての都道府県仏教会の代表者が一堂に参加して頂くのが経済的・地理的な問題もあり難しいのは重々承知しております。ですが、全一仏教運動が対社会的にも非常に評価される活動を行っているのに、それが知られていないということが問題です。

たとえば、遠くの仏教会の参加が難しければ、全国を関東ブロック・関西ブロックあるいは東北ブロック、九州ブロック、というふうにいくつかの仏教会をまとめて一つのブロックを定め、参加を頂く等の取り組みを行います。そう

して各団体の活動や運動方針を協議して頂き、その成果を広報する事が重要です。その場所として、隔年おきの「都道府県仏教会代表者会議」を活用していくのが良いのではないのでしょうか。

機関誌やホームページ等を通じての広報のみならず、さらに業界紙等を活用し、より多くの方々に各都道府県仏教会の活動を知って頂く事が、全日本仏教会の発展並びに公益性の増進にも繋がっていくと思います。



MADE IN KYOTO
SINCE 1830
www.wakabayashi.co.jp

創業天保元年 伝統工芸 京仏壇・京仏具

株式会社 **若林佛具製作所**

【東京店】〒146-0081 東京都大田区仲池上2-8-13
TEL.03-3755-8488(代) FAX.03-3755-8450

【築地店】〒104-0045 東京都中央区築地3-15-1
TEL.03-3546-8228(代) FAX.03-3546-8159

京都本社・札幌店・仙台店・近江草津店・福岡営業所・新潟営業所

理事会・評議員会・参与会開催

一月二十九日
於 東京プリンスホテル

本会議の議事は、まず理事（常務理事）・監事・評議員・参与の変更について、評議員会・理事会それぞれの審議を受け、承認された。

張田珠潮（日蓮宗）

粕谷利通（真言宗豊山派）

高倉隆乗（真言宗高田派）

・参与

退任 中村昌道（福島県仏教会）

就任 横山俊邦（福島県仏教会）

退任 石川正生（真言大谷派）

就任 不破 仁（真言大谷派）

川田聖成（真言宗豊山派）

・理事

退任 日下悌宏（西山浄土宗）

桑原大宗（新潟県仏教会）

松濤弘道（学識経験者）

安原 晃（学識経験者）

就任 伊藤隆泰（西山浄土宗）

加藤朝雄（新潟県仏教会）

・監事

退任 近藤真道（愛知県仏教会）

就任 吉田教行（愛知県仏教会）

・評議員

退任 乙川映元（曹洞宗）

桑羽隆慈（浄土真宗本願寺派）

伊東隆司（日蓮宗）

菅野秀浩（真言宗豊山派）

長岡正明（真言高田派）

就任 佐々木孝一（曹洞宗）

宮崎憲之（浄土真宗本願寺派）

認められなくなるため、理事会

・評議員会開催の定足数を確保

できる役員構成

以上の三点について検討が必要になる。今後専門家を交えて研究を続ける事について、全会一致で賛同を得た。

同じく共通の報告事項として、以下の事項が報告された。

一、財団創立五十周年記念事業の現況について

世界仏教徒会議日本大会の記録写真スライド及びビデオを視聴した後、齋藤明聖総務部長より、五十年記念事業への協力に対する御礼、及び企画の経緯と成果について報告された。また、国際部長よりWFB（世界仏教徒連盟）役職の選挙結果について報告された。

WFB名誉副会長 松濤弘道
副会長 小林正道
執行役員 戸松義晴
人道支援委員会委員長 正本乗光

二、第二十八期各種審議会及び委員会の経過と今後の予定について

総務財政審議会・社会人権審議会・

国際交流審議会の諮問事項に対する審議経過と、宗教教育推進委員会・広報委員会における取り組みの現況について報告された。

三、賛助会員制度の運用について
財務部長より賛助会員の入会現況について報告。また、加盟団体へ賛助会員制度への理解と協力を要請していることを資料に基づき報告。

四、「朝鮮半島出身の旧民間徴用者等の遺骨返還問題」への取り組みについて
総務部長より、取り組みの経緯説明の後、実態調査・実地調査の現況について報告。

五、各部報告
総務部より、依頼により松長会長が「天皇陛下御即位二十年奉祝委員会」代表世話人に就任された旨報告。

財務部より、救援基金の収支の現況・支援先について報告。また、本会ホームページでの仏教系学校・霊場会の紹介について報告。

③ 委任状・書面による持ち回りが

② 公認会計士等専門家の助力を得て会計基準に対応

① 「不特定かつ多数の利益に寄与する」ための事業の見直し

続いて理事会・評議員会共通の協議事項「公益法人制度改革と本財団の公益財団法人への移行について」が豊原大成理事長より上程。移行に ついての課題が事務局及び長谷川正浩顧問弁護士より説明された。

社会人権審議会

一月十九日、本会会議室において第三回社会人権審議会（全体会）が開催された。

諮問に関する審議が行われ、

諮問一「日本国憲法改正論議における本会の対応について」

諮問二「靖国神社への首相及び閣僚の公式参拝中止の要請について」

諮問三「同和・人権問題への対応について」それぞれについて検討された。

諮問一に関しては、専門家を招き講義を受けながら審議を進める事。諮問二に関しては、抗議文提出に関しての世論の反響があったことが報告され、公式参拝中止の要請文を今後も提出するよう取り組みを進めていく旨の賛同を得た。

諮問三に関しては、三月二十六日、東京グランドホテルにて本会加盟団体の同和・人権に関する担当者の「同和・人権問題連絡協議会」を開催し、講師として高橋哲哉東京大学大学院教授を招いて「平和と人権・いま、憲法について考えたいこと」をテーマに研修会を行う。

宗教教育推進委員会

一月二十六日、本会会議室において第四回宗教教育推進委員会が開催された。

始めに、浄土真宗本願寺派 教

学伝道研究センター江田昭道研究員より、「中高教科書における仏教の記述について」が報告され、

教科書執筆者の制約や専門家不在の現状等が語られた。

その後、現状の問題点についての質疑応答がなされ、日本は教科書教育であるため、教科書検定委員の考え方で教科書が左右される可能性がある。仏教側からのチェックが大変重要であること、祖師が歴史上の人物として捉えられるあまり、思想・文化に影響を及ぼした真意が伝わっていないのではないかなどが協議された。

また、各宗派の立場からの宗教教育に対する課題や問題点についても協議・検討がなされた。

また、日本宗教連盟から高等学校学習指導要領案に対するパブリックコメントに関して連絡があり、正副委員長に検討、追記を依

頼した旨の報告がなされた。

次回委員会の開催は三月上旬を予定。次々回の委員会では、講師を招き研修を行った上で、委員会の方向性を検討する予定である。



「中高教科書における仏教の記述について」の報告

加盟団体 顧問弁護士連絡会

二月五日、浅草・浅草寺五重塔会議室において平成二十年度加盟団体顧問弁護士連絡会が開催された。開会前には浅草寺境内の特別拝観が行われた。

今回は、「お布施の定額表示と宗教性」というテーマで櫻井圀郎東京基督教大学教授が講演を行



東京基督教大学教授
櫻井圀郎先生の講演

い、愛知県・東京都の寺院のペット供養を巡る二つの裁判を事例に、税務側・司法側・宗教界それぞれの主張をまとめた上で、問題点及び争点が述べられた。税務当局の信仰欠如した無宗教的見解に寺院・加盟団体が引き込まれないよう注意が喚起された。

講演の後、長谷川正浩本会顧問弁護士を交えての質疑応答及び「公益認定財団・社団法人への移行について」の懇談がなされ、各加盟団体からの現状報告及び今後の移行に関して、どのような取り組みを行う予定かが報告された。

国際交流審議会開催

一月二十一日、本会会議室において第四回国際交流審議会が開催された。

始めに事務局より、昨年十一月に開催された「第二十四回世界仏教徒会議日本大会」について、以下の報告がなされた。

WFB役員選挙において、本会より、副会長に小林正道委員（本会常務理事）、執行役員に戸松義晴委員が選出され、人道支援委員会委員長に正本乗光委員が選出された。また、松濤弘道委員長が名誉副会長に就任した。

WFB人道支援基金（救援基金）の効果的活用について、本会から提出した決議案が採択され、今後、WFB執行役員会議で具体化に向けて検討していく方針である。

今後、記念事業の総括として、『五十周年記念誌』『五十周年記念事業記録DVD』『WFB日本大会紀要』を、十月完成を目指して作成する。

続いて、各委員より今大会について感想や評価等が述べられた。大会中に開催されたシンポジウム

等を通して日本の仏教者が考え、行っていることを世界に向けて主張出来たことは良かったなど、大会の成果を評価する意見が多く出された。

引き続き、諮問事項である「広報・情報交流の活発化」「本会設置の救援基金の活用」「国際的な仏教文化活動への参加」「国際的な仏教人の育成等」に関して審議が行われた。

人材育成について、坂本観泰委員よりWFBY各センターに二十歳以下の人材で国際交流を行う「クラブ25」というプログラムがあり、日本からも参加出来るよう、本会へ協力要請がなされた。

次回委員会の後、理事長宛中間答申を提出することで了承された。

次に正本乗光委員より、WFB人道支援委員会が本年十一月にWFB主催でインドにスタディーツアーを行う提案がなされた件が報告された。今後WFB執行役員会議で検討される。

また、事務局よりWFB本部表敬及びルンビニー園参拝訪問団の実施について提案された。本件については、今後審議会ですpecific化に向け検討を行うことで了承された。

仏教英語プログラム修了式

昨年十二月十七日、メルパルク東京において仏教英語プログラム（BEP）修了式が開催された。

仏教英語プログラムは、在京の仏教系大学（大正・東洋・武蔵野・立正）の学生、並びに曹洞宗教化研修所研修生、一般社会人等、約四十名を対象に平成十九年四月より月に二回行われ、世界仏教徒会議日本大会に向けて、海外参加者へ通訳・ガイド等サポートする人材育成の一環として開催されてきた。

修了式には講師を務めていただいた各先生方をはじめ、プログラムに参加した生徒など、三十八名が参加した。式中には、深澤信善事務総長より一人ひとりに修了証が授与され、大会のスライドが上映された。最後に全員での記念撮影が行われた。



仏教英語プログラム参加者と講師の先生方

BNN企画委員会開催

一月二十日、庭野平和財団会議室において仏教NGOネットワーク（以下BNN）企画委員会が開催された。

機関誌『ニュースレター』第十号の進捗状況の報告、次号の内容検討が行われた。続いて救援事業の現況報告と今後の対応が検討された。

救援事業においては、ビルマ（ミャンマー）・サイクロン、インド・ビハール水害、四川大地震復興支援への支援金の使途が報告された。また、ガザの復興支援を仏教界からも協力したいという意見があり、BNNとして協力することが了承された。

また、第十六回研修セミナーを三月三日午後一時より東京都港区光明寺（浄土真宗本願寺派）で開催する。

BNNでは、国際協力活動を担う仏教者を育てるために、国際問題や社会問題を仏教者共通の概念「三毒」をテーマに人材育成プログラムを進めている。今回のテーマは「無知」で、講師に田中優氏、本多静芳師を迎え、第三セクターとしての寺院・教団の社会的役割について話し合われる。

**東京ブデイストクラブ主催
「第四十三回釈尊成道会記
念チャリティーの夕べ」開催**

十二月十五日、東京ブデイストクラブ主催「第四十三回釈尊成道会記念チャリティーの夕べ」が東京プリンスホテル・パークタワーを会場に開催され、約八百名が参加した。

開会に際し、西村輝成東京ブデイストクラブ会長（本会副会長）を導師に法要が厳修され、井上日宏師による法話が行われた。

挨拶の後、東京ブデイストクラブより、救済事業や社会活動を行っている仏教系各団体、「WFB（世界仏教徒連盟）」（本会を経由してWFBへ）、「メコン総合研究所」・「自殺対策に取り組む僧侶の会」に総額百万円が寄託された。

会場では、会食及び恒例の福引、都はるみさんによるディナーショーが催され、来場者は大いに楽しみ、親睦を深めていた。

（東京ブデイストクラブ関連記事四・五面に掲載）



WFB本部への寄託金が、小林正道WFB副会長に手渡された

**東京都仏教連合会主催
「第二十回成道会の集い」開催**

十二月八日、東京都仏教連合会主催「第二十回成道会の集い」が九段会館大ホールを会場に開催された。例年を上回る約七百名が参加した。

開会に際し、千代田学園の生徒が献灯・献花・献香を行った後、東京都仏教連合会井上瑞雄会長を導師に日蓮宗本山谷中瑞輪寺一山の出仕の元、厳かな法要が厳修された。

法要後、豊原大成本会理事長が二十回目の成道会を祝し、その意義と継続されてきた行事の大切さを述べた。

第一部では、奈良康明師が「バラバラ社会からツナガリ社会へ」と題し講演。世界仏教徒会議日本大会時に上映された映画「幸せの経済学」（ヘレナ・ノーバード・ホッジ氏監修）の内容を現代日本の社会に置き換えた形で心の問題を語った。

第二部は、「雅楽の心と私の生き方」と題し、東儀秀樹氏が日本の伝統的文化と自身が二十五才の時に体験した膝関節にできた癌との精神的葛藤を語った。

最後に笙、龍笛、箏の音色を奏でた。

成道会終了後、反省・懇親会が催され、冒頭、山田一眞東京都仏教連合会理事長が挨拶を行い、昨年十一月に開催した第二十四回WFB世界仏教徒会議日本大会に際して、東京都仏教連合会所属の五十五地区仏教会の大会協力に対する謝辞が述べられた。

続いて、豊原大成本会理事長の挨拶が行われた。

**天皇陛下御即位二十年
奉祝中央式典に出席**

十二月十九日、東京ドームシティに於いて天皇陛下御即位二十年奉祝中央式典が開催され、本会より松長有慶会長が出席した。

第一部では、各来賓から祝辞が述べられた。第二部では浅野温子氏が語り舞台を、テノール歌手の秋川雅史氏が独唱を披露した。各国駐日大使、麻生太郎首相をはじめ主要国会議員も参列する中、約三千名の参加者が集まった。

本年十一月十二日には皇居前広場で十年前と同じく、十万人規模の国民祭典が執行される予定。



式典の様子

財団創立五十周年記念事業 特別協賛金寄付者名

(二〇〇八年十二月十日)
二〇〇九年二月十日

聞證坊 前坂 良憲
地藏寺 一月 正人

(順不同・敬称略)

ご支援、誠にありがとうございました。

財団創立五十周年記念事業は、加盟団体をはじめとして、多くの方々のご尽力により、その主要な三事業(財団創立五十周年記念式典・第四十回全日本仏教徒会議神奈川大会・第二十四回世界仏教徒会議日本大会)を無事円成することができました。誠にありがとうございました。

訂正

前号(五四六号)五頁、世界平和法要の写真に誤りがありました。

正しい写真は、全日本仏教会ホームページ(<http://www.jbfn.jp>)に修正した写真を掲載させていただきます。

関係各位に心よりお詫び申し上げます。

全日本仏教会「賛助会員」

入会者一覽

(二〇〇八年十二月十日)
二〇〇九年二月十日

【団体会員】

株式会社 オメガコム
大和証券株式会社
株式会社 JTB 法人東京
京セラ株式会社

長崎県葬祭協同組合

東京都葬祭協同組合

(社)全日本冠婚葬祭互助協会

日韓仏教交流協議会

名古屋葬祭協同組合

徳島県中央葬祭協同組合

【個人会員】

川嶋英彦(千葉県)
精明寺 正田哲壽(鳥取県)
社本公一(公認会計士)

(順不同・敬称略)

ご入会誠にありがとうございました。引き続き、皆様のご入会をお待ちしております。

本会ホームページから賛助会員要綱・申込書などを閲覧・プリントアウトできます。

<http://www.jbfn.jp/>

全国の寺院にお願い

個人の入会にあつては、入会希望者の菩提寺の推薦を頂くことになりました。加盟団体傘下の各寺院の皆様にはご負担をおかけいたしますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

祈りの世界 ⑩ 中国

中国では社会主義政権が成立後、宗教活動は一掃され、寺院は破壊され、僧侶は還俗させられた。そして十年間続いた文化大革命では、さらに仏教弾圧は激しさを増し、中国仏教は大打撃を受けた。文革後、徐々に宗教の自由化政策を進めるが、今も寺院は共産党政府の組織のもとで管理され自由になったとは言いがたい。それは昨年のチベット仏教の弾圧を見ても明らかである。

他方、経済の発展に伴い会社や裕福な信者から寺院への寄進も増え、都市部や郊外の寺院でも多くの信者達が熱心に祈りを捧げる姿をよく見かける。願わくは中国の仏教がこれまでのような過ちを受けることなく平和的に発展することを祈るばかりである。

(文章及び写真 田村 仁氏)



飛来峰の摩崖仏(宋代)杭州

機関誌『全仏』 広告募集のお知らせ

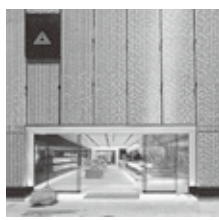
機関誌『全仏』誌は、月間一万部発行され、全日本仏教会加盟団体・各地の寺院の方に購読されております。(年一〇回発行)
広告掲載ご希望の方は、左記全日本仏教会事務局までお問い合わせ下さい。

※掲載内容により、若干の変更を、お願いする場合がございます。ご了承下さい。

全日本仏教会 広報文化部
電話 03-3437-9275
FAX 03-3437-3260
E-mail kouho@jbfn.jp

美と技を極めたお浄土の世界 はせがわ銀座本店

銀座本店の1階「やすらぎの空間」は光と漆に包まれた空間で、お線香や念珠、ローソクをゆっくりとお選びいただけます。2階「癒しの空間」では洗練された光の空間に金仏壇、唐木や新しいスタイルに適したお仏壇をご紹介します。ご相談コーナーは、霊園・墓石のご相談等、ご供養について承ります。6階には HASEGAWA MUSEUMを併設。我が国至高の美術工芸品をご堪能いただけます。「お仏壇のはせがわ」銀座本店は銀座一丁目・中央通り沿いにごございます。



東京都中央区銀座1-7-6 銀座河合ビル1・2・6階
営業時間 11:00~19:00 不定休

0120-58-7676

お仏壇のはせがわ 銀座本店

事務総局録事

十二月(八〜三十一日)

- 八日▼東京都仏教連合会主催「成道会」参列(九段会館)
- ▼文化庁主催 宗教学人指導者講習会参加(国立オリンピック記念青少年センター)
- ▼世界人権宣言六十周年記念集会出席(日本教育会館一ツ橋ホール)
- ▼加盟団体顧問弁護士連絡会開催のための打合せ(浅草寺)
- 九日▼全葬連事務局長・事務局次長来局
- 十一日▼無料法律相談室
- ▼国際仏教興隆協会取材(薬師寺東京別院)
- ▼民主党藤谷光信議員来局
- 十五日▼東京ブティストクラブ主催 第四十三回釈尊成道会記念チャリティの夕べ参加(東京プリンスホテルパークタワー)
- ▼中川雅治君を励ます会出席(グラランドプリンスホテル赤坂)
- ▼真宗大谷派東京出張所長来局

- 十六日▼立正佼成会来局
- 十七日▼日本宗教連盟幹事会・理事会・懇親会(虎ノ門パストラル)
- ▼仏教英語プログラム修了式(メルパルク東京)
- 十八日▼部落解放・人権政策確立要求中央実行委員会第二十四回拡大委員会・第一回総会出席(松本治一郎記念会館)
- ▼局内会議
- 十九日▼天皇陛下御即位二十周年奉祝中央式典出席(東京ドームシティJCBホール)
- 二十四日▼BNN企画委員会出席(庭野平和財団事務所)
- 二十八日▼事務総局年末年始休暇(至 一月六日迄)
- 一月(七〜三十一日)
- 七日▼電通来局
- 九日▼日蓮宗御用始め出席(日蓮宗宗務院)
- 十四日▼真言宗豊山派宗務所訪問
- 十五日▼局内会議
- ▼無料法律相談
- ▼埼玉県佛教会新年懇親会出席(浦和ロイヤルパインズホテル)

- ▼真宗大谷派新年互礼会出席(浅草ビューホテル)
- ▼大本山増上寺新年互礼会出席(増上寺)
- 十六日▼日本仏教保育協会新年懇親会出席(東京プリンスホテル)
- 十八日▼自由民主党第七十六回定期党大会出席(グラランドプリンスホテル新高輪)
- ▼民主党二〇〇九年度定期大会出席(メルパルク東京)
- 十九日▼社会人権審議会全体会開催
- 二十日▼第五十五回「同宗連」研修会参加 至二十一日(天理市)
- ▼BNN企画委員会出席
- (庭野平和財団事務所)
- 二十一日▼国際交流審議会開催
- ▼部落解放同盟・人権政策確立要求中央実行委員会・京都府実行委員会意見交換会出席(京都市)
- 二十二日▼加盟団体顧問弁護士連絡会開催のための打合せ(浅草寺)
- ▼仏教伝道協会訪問
- 二十三日▼浄土宗「浄光会」第二十回新年総会出席(増上寺)

- 二十六日▼宗教教育推進委員会開催
- 二十七日▼局内会議
- 二十八日▼念法真教来局
- ▼第五十六回インド独立記念日レセプション参加(ホテルニューオオタニ)
- ▼大和証券(株)主催「公益法人制度セミナー」参加(帝国ホテル)
- 二十九日▼全日本仏教会理事会・評議員会・参与会・新年懇親会開催(東京プリンスホテル)
- 三十日▼JTB・ICS来局(日本大会報告)
- ▼栃木県仏教会副会長訪問
- 二月(一〜十日)
- 二日▼東京ブティストクラブ取材
- 五日▼加盟団体顧問弁護士連絡会開催(浅草寺)
- 六日▼野村證券(株)公益法人課課長来局
- 十日▼日本宗教連盟幹事会・税制に関する勉強会参加(本社本庁)

無料法律相談室

長谷川正浩顧問弁護士による、無料法律相談を毎月第二、第四木曜日(午後)開催しております。本会事務局03(3437)9275へ事前予約の上、お越し下さい。

花まつりポスターのご案内

皆さまにお届けする、『花まつり』ポスターをこの度刷新致しました。
3種類からご自由にお選びいただけます。



『花まつり』ポスターのお申し込み方法

- ・ **サイズ** 縦 594mm 横 420mm (3種類、同サイズです)
- ・ **種類** (A) 赤ちゃんとお仏像 ・ (B) 仏像 ・ (C) 稚児
- ・ **価格** 1枚 50円 (10枚以上より受付 梱包料・送料別 9枚以下応相談)
- ・ **刷り込み印刷** ポスターの下部に、仏教会名や寺院名の刷り込みも出来ます。(別途料金。ご注文数及びモノクロ・カラーにより金額が変わります。お見積書もお出しできます)
刷り込み1色の場合 500枚まで 20,000円 501枚~1000枚まで 22,000円
- ・ **お届け方法** 宅配便にてお届け ご希望の日時をご指示いただけます。
- ・ **梱包料** 1梱包 200枚まで 600円
- ・ **配送料** 関東 1,250円・近畿/東北 1,350円・四国/中国 1,500円・九州/北海道 1,650円
(例；400枚を関東圏に配送の場合、1,250円+600円×2梱包=3,700円)
- ・ **お申し込み** FAX・お手紙・Eメール等にてお申し込み下さい。ホームページより申込書の印刷も可能です。
- ・ **お支払い** 後日、請求書と払込用紙をお送りいたします。

※ お申し込み・お問い合わせ

財団法人 全日本仏教会

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階

TEL 03-3437-9275 FAX 03-3437-3260 http://www.jbf.ne.jp

全日本仏教会は、花まつりの全国展開を促進してまいります。